

事故や病気で脳に損傷を受けた後に、子供が変わってしまい、家庭や学校の中でこんなことに困っていませんか？

忘れる



- 勉強や生活面で、積み重ねが難しくなる
- 自分の下駄箱の場所や教室の自分の机の位置を覚えるのが難しくなる
- 学校や友人との出来事を忘れてしまう
- ※出来事は忘れても、友人とのけんかや言われたことやその出来事自体の「辛かった」等の負の感情は残る場合がある

【対応方法】

- 本人が出来事や今後の予定（宿題等含む）を確認するためのメモやノートを作成する
- 学校と家庭で宿題の量と内容を確認する（自力で終わらせることができる量に調整することも必要）

つかれやすい



- 元気だったのが、急に元気がなくなる
- 学校では元気だが、帰宅後はぐったりしている
- いつまでも、はしゃいで落ち着けない

【対応方法】

- 保健室などで休憩をとる
- 学校から帰宅後に時間を決めて昼寝をする

すぐ怒る



- 受傷前と後で、性格が変わってしまう（明るくなる、おとなしくなる等）
- 我慢できず、人、場所に関係なくすぐ怒る（よく泣く、雰囲気に関係なく笑う等もある）

【対応方法】

- 本人の言い分を聞き、落ち着いてからどうしたらよいかを本人と話し合う

他にも
 ・集中できない・年齢より幼い言動がみられる・物事にすぐに取りかかれない
 ・しつこくなる・爪先や人との接触等に過敏に反応する（感覚過敏）・音、声などに過敏に反応する、耳に手をあてる等（聴覚過敏）などもあります。
 ※感覚過敏や聴覚過敏は、自分でこの状態を言葉にするのは難しいです。

point! 大切なポイント

- 高次脳機能障害の症状「約束を覚えられない」「すぐに怒る」などがあるため、友達との関係がうまくいかずトラブルになることもあります（同級生等に高次脳機能障害を理解してもらうのも難しい。）。
- 受傷の年齢にもよりますが、受傷前のことは覚えていることが多く、以前の自分と比較し「自己肯定感」がもてなくなる場合もあります。
- 周囲の理解や配慮、環境設定が足りないと二次的な障害（暴言、暴力、自傷行為、学校への行き渋り等）が起こることがあります。本人が自信を失うことなく、安心して過ごせるような配慮が必要です。
- 症状や生じる問題は、年齢や障害状況などにより個人差があります。そのため、個々の特性に合わせて対応していくことが大切です。
- 進学や就労などの子どもの将来の支援につながるためにも、保護者、学校、医療機関、福祉等が連携し、切れ目なく対応していくことが必要です。

相談機関

■ 高次脳機能障害に関する相談機関

- 東京都心身障害者福祉センター
（東京都高次脳機能障害専用電話相談）
電話 03-3235-2955
受付時間 9時～12時、13時～16時

- 区市町村の相談窓口
※連絡先は、お住まいの区市町村により異なります。

■ 子供の発達や育児に関する相談機関

- 東京都児童相談センター・児童相談所
- 子供家庭支援センター
※連絡先は、お住まいの区市町村により異なります。

■ 学校教育に関する相談機関

- 東京都教育相談センター
- 区市町村の教育相談所（室）
※連絡先は、お住まいの区市町村により異なります。

■ 精神保健福祉に関する相談機関

- 東京都立中部総合精神保健福祉センター
- 東京都立多摩総合精神保健福祉センター
- 東京都立精神保健福祉センター
※都内に3か所あります。連絡先は、担当地域によって異なります。
- 保健所・保健センター
※連絡先は、お住まいの区市町村により異なります。

■ 地域の相談窓口

頭の病気（急性脳症・低酸素脳症・脳腫瘍など） けが（交通事故・転落・脳しんとうなど） による後遺症

『あの日から変わってしまった、うちの子は・・・』

もしかしたらお子さんは

高次脳機能障害 かもしれません

「約束したはずなのに・・・」

「やる気がない？怠けてる？」

忘れる 「さっき・・・？
続き・・・？」

「さっきの続きやろうよ！」

つかれやすい

「ねむい・・・」

すぐ怒る

「そんなに怒るコト？」

「勝手に動かしたな！」

「やさしかったのに、
すぐ怒るようになってしまった」

「どうなっちゃったの？」